

「褒める」「認める」「センスを磨く

は、全員でその一人のために褒め言葉を言うのも良いでしょう。その場合は、それぞれが感じている褒め言葉を言うと効果抜群です。感動して泣き出す人もいます。

21世紀は「心の時代」といわれています。サービスマンや商品の付加価値の差は、人により生まれてきます。社員をやる気にさせるために、顧客満足より先に社員満足(E.S.)から始めるという会社が增えています。

社員満足につながる仕組みの中で、最も効果的なのが「褒める」実践です。業績が良い会社は元気で明るいものです。そのような会社にするには、社員に

褒める力をつけさせることです。褒めるのが苦手であれば相手を認める力をつけさせることです。褒め言葉や認める言葉が飛び交う職場は明るくなり、業績の向上につながります。今回は、お互いを褒めあう実習をご紹介します。たった2分の実習で効果は絶大です。

褒める実習の方法

朝礼や研修の受講者を4人〜6人の班に分けます。全員に1枚ずつポストイットを配布します。そこに自分の褒めて欲しい褒め言葉を書きます。自分のモチベーションの高める言葉を一

つだけで良い

ので大きく書きます。それ各班の全員が見えるように胸に張ります。例えば、「元気」「明るい」「たくましい」「頭が良い」「かわいい」などです。それを一人ずつ班の全員が褒めていく実習です。アイコンタクトをしながら書いてある言葉を、本気で言うのです。表情と態度で本気を示します。褒められた人は、「ありがとうございます」と応えます。一周したら、さらに本気度を上げて、もう一周続けて褒めていきます。スピードも大切です。たった2分班のメンバーが明るく元気になります。

特別編として、その日に誕生日の人がいるようなケースでは、全員でその一人のために褒め言葉を言うのも良いでしょう。その場合は、それぞれが感じている褒め言葉を言うと効果抜群です。感動して泣き出す人もいます。

他の人を褒めようとするきっかけには、褒められて嬉しい、認められてうれしかったという感動体験が起爆剤として必要です。この感動体験をすることに、「褒められると人は嬉しいのだ」と感じるようになります。褒める大切さを体で感じることができ、これを動機として、自分の褒め言葉で相手を喜ばせる体験を積み重ねると褒めるセンスが磨かれていくのです。

褒め言葉で明るくやる気のある風土を作りあげましょう。



ふじさき・としろう

株パートナーズリンク代表取締役社長。大阪市立大学経済学部卒業後、大手流通チェーン企業に入社。準大手パチンコホール企業で総括SV、営業企画室長、経営計画部長を経て独立。人事コンサルタントとして社員教育・リスク回避型就業規則作成・クレド作成コンサルティング、評価制度の構築などを行っている。